

平成26年度 鈴鹿市の予算概況

3月定例会に市長から提案され、審議された平成26年度一般会計・特別会計・水道事業会計・下水道事業会計予算の概況は次のとおりです。

全会計合計	・一般会計予算総額	628億1,800万円
1,069億8,166万円	(前年度当初比	35億8,800万円 6.1%増)
前年度当初比	・特別会計予算総額	246億5,665万円
(91億8,644万8千円 9.4%増)	(前年度当初比	22億6,020万円 10.1%増)
	・水道事業会計予算	83億4,900万円
	(前年度当初比	14億7,700万円 21.5%増)
	・下水道事業会計予算	111億5,801万円
	(前年度当初比	18億6,124万円 20.0%増)

○議案第4号 平成26年度一般会計予算 (付託委員会：予算決算委員会)

平成25年度当初予算に比べ、35億8,800万円、6.1%の増加となっています。

増加の主な要因

- 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金の創設により民生費が増加。
- 消防救急無線のデジタル化整備により消防費が増加。
- 土地開発基金を活用しての土地購入費の増加により、諸支出金が大きく増加。

歳出の主なもの

- 総務費におけるモバイル端末活用広報費や次期総合計画策定に係る経費。
 - ・公共施設マネジメント推進費は、公共施設マネジメント白書の作成費用として計上。
 - ・集落間通学路防犯灯事業費は、これまで自治会にお願いしていた事業を、今後は市が責任を持って整備していくこととして、その調査費用を計上。
- 民生費における臨時福祉給付金関係費と子育て世帯臨時特例給付金給付費は、国が消費税率を8%へ引き上げることに伴い、子育て世帯の影響を緩和し、子育て世帯の消費の支えをを図る観点から、臨時的な給付措置として行われるものとして計上。
- 衛生費における各種がん検診費は、これまでの各種がん検診に加え、新たに希望者に胃がんリスク評価として、ピロリ菌抗体検査などに取り組む経費を計上。
- 農林水産業費における農村地域防災減災事業費は、鈴鹿川第一、第二頭首工の改修に係る事業計画策定とため池16箇所での点検に係る経費を計上。
- 商工費におけるメイド・インSUZUKA応援費では、市内の地域資源を活用した商品の販路拡大、販売促進に係る事業の拡充費用として、また伊勢若松駅バリアフリー化整備事業費では、駅舎のバリアフリー化に係る設計費用について、鉄道事業者への補助を計上。
- 土木費における道路新設改良費の新名神スマートインター整備関連事業費は、ネクスコ(中日本高速道路株式会社)からの助成金を受けて、関連する道路整備費用を計上。
 - ・総合雨水対策基本計画策定費は、今後の雨水対策を総合的に進めていくための基本的な指針となる計画策定に係る費用を計上。
- 消防費における防災情報伝達システム整備費は、現在のシステムにおける聞き取り難いエリアへの対策として、一ノ宮地区と井田川地区に防災スピーカーの増設費用を計上。